平成２６年度　公益活動事業補助金事業評価

平成２６年度公益活動事業補助金に係る事業評価を、事業報告会及び事業報告書に基づき実施したので、別紙のとおり報告します。

平成２７年５月２４日

北広島市市民協働推進会議
会　長　　大　橋　弘　昌　大橋

平成26年度公益活動事業補助金実績評価

団　体　名	子育て支援ワーカーズ　ほっとまむ		
事　業　名	北広島の子育て環境の充実を図る事業		
事　業　費	674,509円	補助金額	280,000円

申 請 内 容	①おもちゃライブラリー（仮称） ②きたひろしまの産前・産後サポート ③休日ルーム保育
事業実績及び 今後の事業展開	【事業実績】 ①「ほっとまむトイ・ライブラリー もくてぃ-mokty-」 …35回開催、延べ180組来室、登録数70、貸出数132。イベント開催5回。 ②「きたひろしま産前産後サポート」…登録利用家庭3家庭、サポート回数2回。 ③「休日ルーム保育」…実施せず。 【今後の事業展開】 今後の展開として、「もくてぃ」は現在の開室日時では利用者が限定されるので開室曜日を増やすことを検討する。また、様々な世代に向けてのイベントを企画し、誰もが足を運びやすい工夫と広報をしていきたいと考えている。 「きたひろしま産前産後サポート」は、件数は少ないが毎年問合せや登録・依頼があるので平成27年度も引き続き対応していきたい。 「休日ルーム保育」は、見込んでいたメンバーの増員ができず、人員不足のため実施できなかったが、平成27年度以降検討していきたい。
協働推進会議 委員による評価	【事業効果について】 ・「もくてぃ」については、おもちゃに特化した図書館機能（体験遊びと貸出）の提供、絵本やおもちゃの講演会・親子で遊べるイベントの開催など、申請内容に合致した活動が実施されており、おもちゃを用いた子育て支援の場を整備したことは市の子育て環境の充実という観点から有益であったと評価できる。今後は一般市民が更に参加しやすくなるように会場場所の設定や規模、広報方法の検討を積極的に行っていくことを期待する。 ・「きたひろしま産前産後サポート」は利用実績が少なく、事業費に見合った効果が得られたか疑問が残る。効果が出るまで時間がかかる事業であることは理解できるが、補助事業として申請している以上、成果として現れるよう事業に加速をつけてもらいたかった。 【効率性の追求について】 ・チラシをメンバーの手で市内各地区にポスティングをするなど、PR・周知方法に工夫が見られた。 ・備品の棚については、材料について十分検討し、品質や機能について配慮すべきだったのではないか。 ・補助対象経費外ではあるが、携帯電話受付手当が一律1万円というのは多いのではないか。 【今後の団体活動への寄与について】 ・過去2回（平成22・23年度）の補助を行っており、団体として既に自立した活動を行っているとの意見が大半であったが、子育て環境の充実という行政のニーズに合致した新たな事業の初動を支援することは有益であったと認められる。
協働推進会議 総合評価	木のおもちゃを中心とした様々なおもちゃと、親子でふれあえる場と機会を提供し、また、ゲーム等を通じて交流の機会を創出しようとする本事業については、子育て環境の充実という観点から有益であったと評価できる。 今後も地域に根付いた活動をしていくことを期待する。

平成26年度公益活動事業補助金実績評価

団　体　名	特定非営利活動法人 くらしの研究会		
事　業　名	朗読劇教室		
事　業　費	831,525円	補助金額	400,000円

申 請 内 容	市内に在住する方（車いす・視覚障害の方を含む）を対象に、市の広報及び新聞・ラジオ・ポスター等で生徒を募集し、7月から来年3月まで、市内の会館等において、現役役者2名（男女各1名）を講師として、朗読劇の経験のない方に呼吸法から始まり滑舌や感情表現の実際的な形を学ぶ「朗読劇教室」を週1回程度開催し、その成果を、小学校や中学校、市民ホール等で発表します。 成果の発表にあたっては、参加者個々の体験談や創作童話等をモチーフとしたシナリオ等の創作を行うなど、多くの市民に関心をもって参加していただけるような工夫を行います。

事業実績及び今後の事業展開	【事業実績】 平成26年8月10日から平成27年3月29日までで、全32回の朗読劇教室を開催し、延べ人数214人の生徒に朗読劇を教えた。公開稽古・発表会では約80人程度が参加。 教室に通う生徒は、8ヶ月の教室での指導で、呼吸法や発声の方法などを学び、職場や対人関係でその効果が発揮された。 【今後の事業展開】 当初は10名の生徒を集める予定だったが、最終的には9名となってしまった。それは、朗読劇というジャンルがまだ社会的に認知されていないからだと捉えている。朗読劇が果たす役割と手ごたえを、今後に生かすため、もっと沢山の人々にもっと参加しやすい形を目指したいと考える。

協働推進会議委員による評価	【事業効果について】 ・当初の計画に記載されていた障がいのある方や引きこもりの方、吃音で困っている方の生活改善に寄与する可能性のある事業ではあるが、実際にはその対象に効果が及んでいない。講師謝金が事業費の大半を占め、自分たちの練習に費用が使われているという印象を受ける。 ・生徒数、観客数も計画より少なく、事業費に見合った効果があったとは言い難い。 ・一方で、高齢者にボランティアで読み聞かせをしていることは評価できる。1年間の活動で生徒の成長が伺える。 【効率性の追求について】 ・講師の謝金及び交通費、印刷費については縮減可能な部分が見受けられる。また、事業実施にあたって効率性を追求する姿勢が見られないことが残念。今後は、講師から指導を受ける回数を減らす、ポスターや広告は外注せず団体で制作するなど、主体的に努力することを求める。 【今後の団体活動への寄与について】 ・補助金の額以上が講師謝金に充てられていては自立性に心配が残る。講師を1人とするか、自分たちで教え合うような自立に向けた工夫を求める。 ・目が弱くなったお年寄りに対する読み聞かせなど、社会的弱者を支援するような、市民ニーズを捉えた公益性の高い活動をして欲しい。そういった公益的活動を自立的に発展させていくような将来性に期待したい。

協働推進会議総合評価	当初の計画に記載されていた障がいのある方や引きこもりの方、吃音で困っている方の生活改善には効果が及んでいないと感じられるが、この教室で学んだ市民がその技術を活かして読み聞かせ等を行ったことは、十分な効果とは言えないまでも波及効果として公益性があったと評価できる。 今後は、朗読劇がもたらす効果により、コミュニケーションに難を抱える方の生活改善につながる活動など、公益性がより拡大されることを期待する。 より充実した団体活動を進めていくために、活動の自立性、継続性を意識して、経費の使途については十分な工夫をすることが必要と考える。